

帝国日本における民衆の生活社会史
—台湾在住内地人女性の中のアジア・太平洋戦争に関する一考察—

張紋絹 (文学研究科・日本学講座 DC3)

linda_changjp@yahoo.co.jp

一、調査趣旨と目的

既往の日本植民地統治に関する研究では、「植民者＝日本人＝支配者」対「原住民＝台湾人＝被支配者」という図式から論じるものが多かった。近年、「支配－被支配」という対立的な図式が疑問視されはじめ、政治的、経済的、社会的に決して一枚岩ではなかった「日本人」と「台湾人」の複雑な内在的構造に焦点をあてることを通して、日本植民地主義の本質と台湾の近代社会の構造を解明する研究は増えてきた。しかし、これらの研究の多くは「日本人－台湾人」という対立的図式から脱していないままに、「台湾人」のアジア・太平洋戦争期における「日本人化＝皇民化」という視点に即して議論を展開してきた。

しかしながら、「日本人」とは誰か。「台湾人」とは誰か。そして、「皇民」とは誰か。植民地台湾に生活していた人々は「アジア・太平洋戦争」において、どのように自分を「帝国日本」の中に位置付け、または自分をそのように位置付けざるを得なかったのか。そして、そうすることで、どのような新たな包摂と排除を生み出したか。広大な地理空間を有した「帝国日本」の中で移動し、または移動せざるをえなかった人々はどのような交錯した関係を築いたか。それから、「アジア・太平洋戦争」を経て、「日本人」と「台湾人」というカテゴリはどのような変化に迫られたか。「日本人」と「台湾人」は「帝国日本」の終焉に、どのような運命・選択におかれたか。

これらの課題を解明するために、「植民者＝日本人＝支配者」対「原住民＝台湾人＝被支配者」というような図式にあてはまらずに、植民地時代の台湾に生活していた人々のライフヒストリーを丹念に解明し、彼（女）らの生きた「帝国日本」、そして彼（女）らの中に刻印された「アジア・太平洋戦争」を再検討する必要があると思われる。そこで、今回の調査研究は以上のような問題関心に基づいて、植民地時代の台湾に生活した経験を持つ人々に対して聞き取り調査と史料の史料調査を行った。彼（女）らのライフヒストリーから、「帝国日本」と「アジア・太平洋戦争」を検討し直そうとする。特に、女性を中心に、中でもこれまでほとんど研究されなかった「台湾人」と結婚した「日本人」女性にも焦点を当てて、家族と国家の挟間に生きたこのような女性の体験から、「植民者＝日本人＝支配者」対「原住民＝台湾人＝被支配者」というような図式の単純な自明性を問い直そうとする⁸。

二、調査概要

◆ 調査期間— 2010年2月1日—3月26日（計54日）

⁸ そのため、今研究においては調査対象を「日本人」と「台湾人」に分類せず、当時の行政上の分類法、つまり「内地人」と「本島人」に分類する。なお、当時において、本島＝台湾、またはその他の外地に生まれた「日本人」であっても、「内地人」と称された。ただ、たとえ内地に生まれた「台湾人」であっても、「本島人」と称されたことを記しておきたい。

◆ 調査地と調査内容一

1. 2010年2月1日－2月10日：日本（大阪府/京都府/神戸市/奈良市）

→ 「内地人」女性 11 名、「内地人」男性 6 名、「本島人」女性 2 名、「本島人」男性 1 名に対して聞き取り調査と史料調査を行った。

2. 2010年2月11日－3月7日：台湾（台北/台中/彰化/雲林/南投/高雄/宜蘭）

→ 訪問機関①：台湾日本人会（日僑協会）⁹。台湾在住の「日本人」の各コミュニティーに関するの情報収集及び会誌などの資料調査。

→ 訪問機関②：台北市松年福祉会玉蘭荘¹⁰。ボランティア活動をしながら、「内地人」女性 6 名と「本島人」女性 12 名と「本島人」男性 8 名に対して聞き取り調査を行った。

→ 訪問機関③：財団法人台北市私立愛愛院¹¹。「内地人」女性の施照子の戦前生まれの親族 3 名に対して聞き取り調査と史料調査を行った。

→ 訪問機関④：「居留問題を考える会」¹²。日台国際結婚家庭の歴史や居留に関する諸問題などについて聞き取り調査と資料調査を行った。

→ 国際結婚家庭日本人妻の親睦会である台北の「なでしこ会」¹³と台中の「桜会」と高雄の「ひまわり会」の会員たち計 11 名に対して、聞き取り調査と史料調査を行った。

→ 植民地時代の台北市の永楽公学校と日新公学校と樺山小学校の卒業生である「本島人」女性 7 名、男性 4 名に対して、聞き取り調査と史料調査を行った。

→ そのほか、「内地人」女性 2 名、「本島人」女性 6 名（内の 2 人の母親は「内地人」）、「本島人」男性 5 名（内の 1 人の母親は「内地人」）に対して聞き取り調査と史料調査を行った。

3. 2010年3月8日－3月26日：日本（関東地方/栃木県/群馬県/愛知県/山口県/北九州）

⁹ 1961年に親睦と福祉の促進や日台親善を目的として設立され、台湾に居住する20才以上の日本人（個人会員及び夫婦会員）と台湾に事務所をもつ日系法人（法人会員）で構成されている組織である。台湾で最も大きな日本人会で、日本人学校の設立母体でもある。各種文化活動が活発に行われる。会報「さんご」を発行している。

¹⁰ 1989年に設立された日本語によるシルバー・ディケアセンター。活動日は週に二回で月曜日と金曜日の朝十時頃から午後三時頃まで。活動内容はとても豊富で、まずは懐かしい歌を皆で歌うことから始まり、礼拝、専門講座、健康講座、おしゃべり会（健康、趣味、生活等について）、カラオケ、外来語、映画鑑賞、色々な手工芸指導、お誕生日会、交流会等がある。また、特別行事も、ピクニック、クリスマス、創立記念礼拝、音楽会、バザー等のイベントがある。また、「玉蘭荘だより」（日本語/中国語の二版）を発行している。

¹¹ 1923年に「本島人」施乾(1899-1944)は「愛愛寮」という乞食収容所を設立した。1934年に「内地人」女性清水照子(1910-2001、京都府出身、終戦後は中華民国政府に「留用」され、その後は中華民国国籍に帰化し、施照子に改名した)と京都賀茂神社で結婚した。時代が変わる中で、愛愛院は、乞食の施設から高齢者のそれになり、現在は台北市政府の補助を受け、高齢者の収容施設認可を受けることとなった。

¹² 日台国際結婚家庭の日本人妻を中心としたボランティアグループ。全国に会員約400名。国際結婚家庭の居留環境の改善を目的に関係機関へ陳情や居留情報の提供活動の他、居留問題の相談や法律問題等の座談会・講演会を各地で開催している。

¹³ 1975年に台北で結成された国際結婚家庭日本人妻の親睦会。会員数は160名以上、年齢層は20代から80代と幅広い。主な活動は月1回の食事会、講習会、講演会など。また、ほかには、新竹の「新竹日本人妻の会」、台中「桜会」と「台日会」、嘉義の「さくらんぼ会」、台南の「南風」、高雄の「ひまわり会」、花蓮の「花蓮県日本人会」、台東の「台東日本人会」などの親睦会がある。

- 訪問機関①：財団法人台湾協会¹⁴の平成 22 年度交礼台湾の会に参加し、聞き取り調査を行った。
- 訪問機関②：台湾の食品の通販会社 T 社¹⁵。聞き取り調査と史料調査を行った。
- そのほか、「内地人」女性 18 名、「内地人」男性 11 名、「本島人」女性 4 名、「本島人」男性 2 名に対して聞き取り調査と史料調査を行った。

三、調査成果

1. 聞き取り調査一

前述したように、今回の調査研究は植民地時代の台湾に生活していた人々のライフヒストリーから、「帝国日本」と「アジア・太平洋戦争」を検討し直そうとする一つの試みであるが、けっして一つの「帝国日本」像と「アジア・太平洋戦争」真相を追求しようとしてはいない。むしろ、一人一人のライフヒストリーから「帝国日本」と「アジア・太平洋戦争」に接近し、現在利用しうる文献に書かれていない多くのことを聴き、新たな問題点を発掘しようとしている。そのため、聞き取り調査の時には、調査者の一方的な問題意識によって構成された調査項目に従って一方的に調査対象者から情報を収集する、というような聞き取りの手法をあえてとらずに、できるだけ調査対象者たちの自らの語りを重要視した。このような調査手法で「歴史事実」を解明することができないと考えられるかもしれないが、一人一人のライフヒストリーを大事にすることを通して、「歴史理解」をめぐるコンフリクトの研究に寄与できると思われる。成果報告会では、いくつかの事例を挙げて、彼（女）らから収集した個人的な史料を併せて、詳細に検討していくつもりである。

2. 史料調査一

今回の調査研究では、いろんな方々から古い写真、地図、ハガキなどの個人的書状、手記、私家本、勲章、昔の小学校の家庭通信簿、戸籍登録名簿などをはじめ、各地域の出身者が結成した会の会報と名簿、小学校や中学校の同窓会会誌と名簿などを大量に寄贈してもらった。場合によってはコピーしてまたは写真を撮らせてさせてもらってから返す予定だが、どこの機関でも所蔵していないこれらの貴重な史料を第三者の研究にも活用されるために資料化していきたい。また、これからはこれらのいろんな大切な思い出が詰まっている一つ一つの史料を一つ一つ丹念に見て、読んで、考えて、そして、史料の検証と批判していきたい。

3. 植民地時代の台湾に生活した経験を持つ人たちの現在におけるネットワークの把握 -

許可を得た上で情報を慎重に公開し、第三者の研究または組織的な研究プロジェクトに寄与していきたい。

¹⁴台湾関係者相互の連絡・親睦・共栄を図ることを以って目的とする組織である。事業の内容は日台間の相互理解の促進、台湾関係の重要図書・資料の収集および活用利便性の向上、慰霊法要、会報「台湾協会報」の発行、高齢者の福祉などである。

¹⁵「本島人」が創業した台湾の食品の通販会社。1997 年創業以降、季刊誌の通販カタログと共にコラム「湾生からのお便り」を発刊し、多数の台湾で生活した経験の持つ「内地人」たちと文通がある。そして、多数の方々から個人的史料の寄贈を受けている。